

オラドゥール。あの日はとっても暑かったです。強烈な光線の中であのレンガの放つ色のなんと柔らかく明るく美しかったことか。私は、当時の人々の生活を思い描いていました。ちょうどよい人口規模、ブロックごとにまとまった住居。その中で必要な仕事が必要なだけ営まれ、需要と供給のバランスは自然に取れ、競争もなければ搾取もなく、あせることも急ぐこともない。子供たちは男子・女子・混合スクールを自由に選択し、幼児から 17~8 歳まで入り混じり思いっきり運動場を駆け回り笑い合い…。家を一步出れば誰かに会い、会話が生まれ、やがて、食べ物を持ち寄り宴が始まる。家族はどこまでも仲良く穏やかで……。そして新しい文化のにおいを嗅ぎたくなれば、村の中央を走るあの 1 本の電車に乗って……。

自然の美しさと豊かさ、そして何よりも自由にあふれていて……。幸せってこういうことなんじゃないかなと思いました。

戦争は、そんなオラドゥールを、有無を言わず一瞬にして壊滅しつくしたのです。

大久保 玲子【2018.9.24】